第46回コーデックス総会

- 日程：（本会合）2023年11月27日(月)～30日(木)
  27日(月)午前、コーデックス60周年記念イベントが行われた。
  （レポート採択）2023年12月2日(土)
- 場所： ローマ（イタリア）、ウェブ参加者も発言可能
- 参加国・オブザーバー：158加盟国、1加盟機関(EU)
  9国際政府機関(IGO)、30国際非政府機関(NGO)、1国連機関
- 日本政府代表団：農林水産省3名、厚生労働省3名、消費者庁1名で対応

第46回総会の作業文書等は下記URL（コーデックス事務局ホームページ）から入手できます
（ウェブキャストで全日の議論を視聴できます）
https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=CAC&session=46

0

第46回総会の議題一覧と主な結果

★の議題は次頁以降で詳しくご説明します。

1	議題の採択
2	第84・85回執行委員会の報告★→米国の提案により、食品包装へのリサイクル材料の使用に関するガイダンス作成に向けて、回付文書により情報収集し、次の進め方を検討する。
3	手続きマニュアルの修正
4	部会の作業（採択、新規作業、既存の文書の廃止、作業中止等）
4.1	アジア地域調整部会（CCASIA）
4.2	ラテンアメリカ・カリブ海地域調整部会（CCLAC）
4.3	食品衛生部会（CCFH）
4.4	北米・南西太平洋地域調整部会（CCNASWP）
4.5	食品残留動物用医薬品部会（CCRVDF）
4.6	栄養・特殊用途食品部会（CCNFSDU）
4.7	食品添加物部会（CCFA）
4.8	食品汚染物質部会（CCCF）
4.9	食品輸出入検査・認証制度部会（CCFICS）
4.10	食品表示部会（CCFL）
4.11	分析・サンプリング法部会（CCMAS）
4.12	残留農薬部会（CCPR）
4.13	近東地域調整部会（CCNE）
4.14	一般原則部会（CCGP）
4.15	ジルパテロール塩酸塩（牛の肝臓、腎臓及び筋肉）のMRL 案★→最終採択（投票の結果）
5	コーデックス規格と関連文書の修正（コーデックス事務局による提案）
6	コーデックス部会から総会への付託事項 →フルーツジュース及びネクターに関する一般規格の修正（ブラジル提案）は、総会の下にEWGを設置し、第47回総会に向けて検討する。
7	地域調整部会からの報告
8	科学の役割に関する原則文の適用★→ガイダンス案の適用により多くの経験を積む必要があることを確認。得られた経験を踏まえて再検討。（時期未定。総会での議論は一旦終了）
9	新たな食料源と生産システム★→メンバーに、活動中の部会に、あるいは執行委員会に、新規作業提案を提出するよう奨励。（総会での議論は一旦終了）
10	コーデックスの予算及び財政に関する事項
11	FAO及びWHOから提起された事項
12	議長・副議長及び地域代表国（執行委員会メンバー）の選出及び地域調整国の任命→日本の執行委員会のアジア地域代表の任期は終了。次はインドが立候補し、選出された。
13	コーデックス部会の議長を指名する国の指定
14	その他の作業 →インドから、雑穀（ミレット）のグループ規格の開発が提案された。意見照会のための回付文書を発行し、第47回総会で新規作業として承認するかどうか議論される。
15	報告書の採択

全て採択、承認
- 留保や懸念が表明された事項、記載ミスが訂正された事項、部会への申し送り事項等あり
- 最終採択された規格は近日中にコーデックスのホームページ上に掲載される

1

議題2　第84･85回執行委員会の報告（主な報告事項）

（主な報告事項※）　※執行委員会の議論・勧告を踏まえて検討することになっている主要事項は、各関連議題において議論された（議題4、6、10、11）

- コーデックスの将来の青写真案
  - 第85回執行委員会では、作業文書の配布が大幅に遅れ、実質的な議論を行うことはできなかった。
  - **コーデックスの将来の青写真は作成せず**、**コーデックスの将来の方向性を導くために次期戦略計画を活用**し、**それと並行して、コーデックスの将来の作業モデルを検討**すること、また、**将来の作業モデルを記した作業文書**（CX/EXEC 23/85/3, Appendix II）**は、経験に基づき定期的に見直されるべき生きた文書**であり続け、**第86回執行委員会でさらに議論**すること等に合意。
- コーデックス戦略計画2026－2031
  - 第85回執行委員会では、**次期戦略計画の「ビジョン」、「ミッション」、「コアバリュー」、「変化の推進力」、「コーデックスの役割」及び「コーデックスの作業方法」の一次案を作成**。
  - メンバー・オブザーバーへの意見照会、議長・副議長と各地域との非公式コンサルテーションが実施される。
- コーデックスのオブザーバー資格を持つNGOのレビュー：二重参加条項
  - 第85回執行委員会は今次総会に、**NGOに対し、積極的に対応するよう、また、手続きマニュアルに従って必要に応じて情報を提供するよう、奨励**することを勧告。（→今次総会はNGOに奨励することに合意。）
- 地域規格の課題等
  - 第85回執行委員会は、CCASIAからの要請に、**a)食品が国際的に取引されているかどうかに関わらず、地域あるいは国際規格に関する新規作業提案は、地域調整部会から執行委員会に提出されてクリティカルレビューが行われ、総会において、規格の性質について、またどの部会で開発されるかについて、最終的な決定が行われる**、また、**b) 地域調整部会（新規作業の提案者）は、十分に調査された、必要な情報を全て含む討議文書あるいは新規作業提案文書を準備すべき、これにより、執行委員会の役割が促進され、総会に対して適切な助言を行うことが可能**、との回答を行うことに合意した。
- **食品包装のリサイクル材料の食品安全考慮事項に関するリサイクルガイダンスの調査と開発**に関する提案
  - 第85回執行委員会では、米国提案（コーデックスでリサイクルガイダンス作成等の新規作業を行うことへの関心、ニーズ、価値があるか情報収集）を検討し、今次総会に**意見照会のCLの発行**を勧告。また、**メンバー・オブザーバーからの回答を踏まえて次のステップを検討**することに合意。（→今次総会はコーデックス事務局にCLの発行を要請。**作業は前段階であることを確認**。）

議題4.15

ジルパテロール塩酸塩（牛の肝臓、腎臓及び筋肉）のMRL案（ステップ７）

（第45回総会までの議論と結論）
- CCRVDFにおいて、JECFAから提案されたMRL原案の科学的妥当性は確認されたものの、EU、タイ、中国、ロシア等の反対により、採択に進めることができない状態になっていた。
- 第45回総会において、MRL原案は**投票により予備採択された（ステップ5）**。「ステップ6、7をとばし、ステップ8に進む手続き（ステップ5/8による最終採択）をとるか」は、投票により否決された。
- CCRVDF議長から、部会でこれ以上技術的な議論する内容はない旨の発言があり、議論の結果、**ステップ6以降はCCRVDFに戻さず総会で進める**ことになった。
- 第46回総会までの間に、議長・副議長はメンバーと非公式コンサルテーションを行うことになった。**第46回総会でも議論を継続**。

（2023年夏に行われた議長・副議長との非公式コンサルテーション）
- 約90メンバーと実施。議論に反対するメンバーをMRLの脚注に記載する提案が示された。
- **全体として従来の主張が繰り返され、立場の歩み寄りは見られなかった。**

（2023年11月17日に議長から発出されたレターの主なポイント）
- 第46回総会開始時点でステップ７の段階。
- 第46回総会では、ステップ８に進めるかどうか議論し、合意が得られない場合は投票（過半数の賛成が必要）。
- ステップ８に進めることが決まった場合、最終採択するかどうか議論し、合意が得られない場合は投票（過半数の賛成が必要）。

（第46回総会の議論①：JECFAのリスク評価について）
- JECFAのリスク評価に関し、**昨年の第45回総会の結論（MRL設定のための強固な基礎を提供している）が再確認**された。
- タイから、リスク評価の結果に反対しないものの、昨年の総会と同様、国によっては大量に摂取している他の組織は評価に反映されておらず、限られた組織のみ評価に勘案されている旨、懸念が表明された。

議題4.15

ジルパテロール塩酸塩（牛の肝臓、腎臓及び筋肉）のMRL案（ステップ７）

（第46回総会の議論②：**ステップ８に進めるかどうか**）

- 英国から、規格に脚注をつけることが提案されたが、合意が得られなかった。
- EUから、MRL案をステップ８に進めることについて唯一許容できるのは、MRL案をステップ８に留める場合である旨主張があったが、合意が得られなかった。
- 複数のメンバーが反対を表明したため、**議長から、コンセンサスがないとの判断が下され、投票が実施**されることになった。

＜投票結果（挙手投票、国名は記録しない）＞

賛成：86票（日本含む）、反対：51票（EU26票含む）、棄権：11票

→ 86/137で過半数（69）の賛成が得られたため、**ステップ8に進める**ことになった。

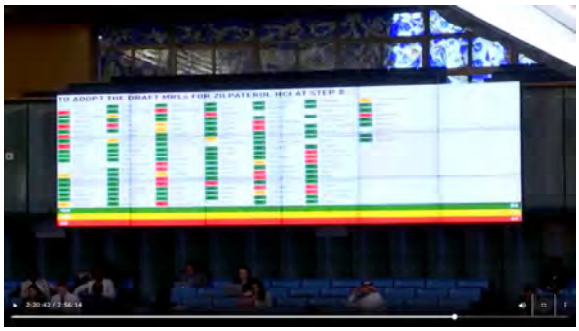
（第46回総会の議論③：**最終採択するかどうか**）

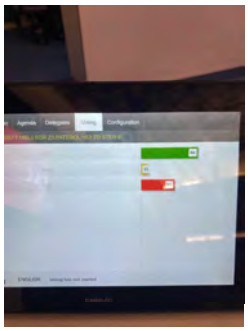
- 複数のメンバーが反対を表明したため、**議長から、コンセンサスがないとの判断が下され、投票が実施**されることになった。

＜投票結果（挙手投票、国名は記録しない）＞

賛成：88票（日本含む）、反対：49票（EU26票含む）、棄権：11票

→ 88/137で過半数（69）の賛成が得られたため、**最終採択された**。





（写真）電子投票の様子

議題8　科学の役割に関する原則文の適用

（第45回総会までの議論）

- 手続きマニュアル中の**「コーデックス委員会意思決定プロセスにおける、科学の役割及びその他の要因をどこまで考慮すべきかに関する原則文」**に関し、執行委員会において、原則文の議論自体は再開せずに、当該原則文の適用のためのガイダンスの作成を検討。
- 第83回執行委員会（2022年11月）までに、**「原則文の適用に関するコーデックス議長とメンバーのためのガイダンス案」**をまとめたが、特に、**原則文第4パラグラフの使用を示すためのオプション（メンバーが原則文第4パラグラフの使用を表明した場合、それを会議のレポート中にだけではなく、規格の脚注に記す）を含めるかどうかに関し、執行委員会メンバー間の意見の対立**。
- 第83回執行委員会は、ガイダンス現時点版は、最終版ではないが、原則文の理解を深め実践するために実用的で役立つ文書であること、この作業を進めるかどうか、どのように進めるかについて、第45回総会で議論すること、執行委員会では本件に関しこれ以上の議論は行わないことに合意。
- 第45回総会では、部会議長に、原則文の範囲内にある問題の審議を促進するためガイダンス案を参照すること、メンバーにコーデックス規格の策定プロセスにおいて、必要に応じて、ガイダンス案を考慮することを推奨。
- しかしながら、作業を継続するかどうかについて、意見が対立。コーデックス事務局から、メンバー等に回付文書を発出し、ガイダンス案の改善と最終化、追加すべきもの等に関する具体的な提案を募ることとなった。**第46回総会でも議論を継続**。

（2023年夏に行われた意見照会）

- オプションを維持するか削除するかどうか、ガイダンスの範囲を新規作業の検討にも拡大するかどうか、「その他の正当な要因（OLF）」、「規格の受諾拒否」、「留保」の定義の必要性について、意見の相違があった。（**特に歩み寄りは見られなかった**。）

（第46回総会の議論と結論）

- 日本は、作業に感謝を表明しつつ、ガイダンス案には合意していない箇所はあるが、部会議長やメンバーにとって実用的で役立つ文書であり、現時点でこれ以上の作業は不要と考えること、議長とメンバーがガイダンス案を基に経験を積むには時間が必要であり、その経験を踏まえて将来再検討することは可能との意見を表明。第45回総会では議論を継続すべき旨表明していたメンバーを含め、多くのメンバーが同様の意見を示した。
- **ガイダンス案の適用により多くの経験を積む必要があること**、また、**得られた経験を踏まえて、ガイダンス案を再検討**することに合意。

議題9　新たな食料源と生産システム（NFPS、いわゆる新規食品）

（第45回総会までの議論）

- 2021年10月、FAO及びWHOが、コーデックス委員会においてどのように「NFPS」の安全性等の課題に取組むべきか問題提起。
  NFPSの例示として、**海藻、　微細藻類、　食用昆虫、　細胞培養食品、　植物ベースの代替たんぱく質、　３Dプリント食品**

- まずは、執行委員会での検討のため、NFPSに関する情報や意見を募集。25メンバー、10オブザーバーより、約100頁の情報。
- 2022年11月、第83回執行委員会は、**NFPSに関する検討を希望するメンバーが、新規作業提案を関連部会に提出する**こと等を勧告。第45回総会では、前回総会と同様、コーデックス委員会におけるNFPSに関する作業の進め方をさらに検討するための作業部会の設置を求める意見が出されたが、議論が難航し、合意は得られなかった。
- この結果、コーデックス事務局より、メンバー等に回付文書を発出し、コーデックスの現在の手続きや部会では対処できないNFPSに関する課題に関する情報を募ることとなった。**第46回総会でも議論を継続**。

（2023年夏に行われた意見照会）

- 一部のメンバーから、NFPS由来食品のリスク分析ガイドラインやNFPSの定義等の作成の必要性が示された。また、NFPSに関する課題を取扱う特別部会の設置も提案された。
- しかしながら、**多くのメンバーから、コーデックスの現在の手続きや部会で対処できない課題はない旨、また、現時点では具体的な提案の提出は計画していない旨示された。**（一部の国から近い将来提案を提出する可能性は示された。）

（第46回総会の議論と結論）

- 関心あるNFPSとして、細胞性食品、昆虫、海藻等への言及があり、NFPSに関する課題の重要性と幅広い問題が強調された。また、コーデックスが国際基準設定機関としてこれらの課題に取組む重要性についても強調された。
- 一部のメンバーはNFPSに関する課題を取り扱う特別部会の設置を提案したが、**多くのメンバーが、コーデックスの現在の作業メカニズムで十分対処可能であり、新しいメカニズムの検討は時期尚早との意見を表明**した。
- 議論の結果、**メンバー及びオブザーバーが、活動中の部会あるいは執行委員会に、NFPSに関連する課題の討議文書あるいは新規作業提案を提出することを奨励（←第45回総会の結論とほぼ同じ内容）**
- NFPSに関連した継続的な活動を行うFAOとWHOに感謝

その他：コーデックス60周年記念祝賀イベント

- 本年はコーデックス委員会設置60周年にあたり、総会一日目午前中、コーデックス60周年記念祝賀イベントが開催された。
- イベントでは、コーデックスの活動に長年貢献してきた部会ホスト国及び総会議長・副議長への記念品授与が行われた。日本は、バイオテクノロジー応用食品特別部会（現在は閉会中）のホスト国として、また、総会副議長を務めた吉倉廣氏（2003年～2005年）及び辻山弥生氏（2014年～2017年）に、記念品が授与された（出張者が代理で受領）。
- また、「メンバーからの声」として、日本を含む執行委員会地域代表７カ国が記念スピーチを行った。日本は、スピーチにおいて、コーデックス対応者の次世代を育成する必要性とコーデックスの基準策定作業における科学的根拠の重要性について強調した。

（写真）部会ホスト国集合写真（コーデックスウェブサイトより）

（写真）
吉倉氏記念品

（写真）部会ホスト国記念品

（写真）辻山氏記念品